

奈良県の経済動向分析
2017年12月

2017年12月27日

有限会社オフィス・ビー

[1] 分析の概観

【消費（P. 3～6）】

◆奈良県の百貨店・スーパー販売額

- ・奈良県内の百貨店・スーパー販売額の前年同月比は、2017年5月からマイナスが続いていたが、8月・9月はプラスになった。しかし、10月には再びマイナスに転じた。
- ・前回・前々回に引き続き、奈良県内の百貨店・スーパー販売額の前年同月比は浮き沈みを繰り返している。
- ・今後の前年同月比がマイナスを続けるか、再びプラスに転じるか、また増減の幅はどのように変化するのか、注目する必要がある。
- ・前回の調査では、合計の商品販売額の前年同月比がマイナスに落ちていたが、2017年8月・9月は若干のプラスになり、10月は再びマイナスになった。
- ・商品群別に見ると、「衣料品」「身の回り品」「飲食物品」が8月・9月の前年同月比の増加に貢献したが、10月は全ての商品群が前年同月を下回った。
- ・2017年10月の前年同月比のマイナス値はまだ小さい。今後の動向を、更に注目する必要がある。

◆奈良県の新車販売台数

- ・2017年8月～10月の間、「乗用車」の販売台数合計はプラスになった。
- ・特に、9月は「普通車・乗用車」「軽自動車」ともに、販売台数が前年を上回っている。
- ・今回の調査においても乗用車販売台数は前年よりも増えているが、伸びは小さくなりつつある。今後の動きに注意が必要である。

◆奈良市の消費者物価指数

- ・2017年11月以降プラスの状態を続けてきた「奈良市の消費者物価指数」の前年同月比は、今回の調査においても前年を上回り続けた。
- ・商品群別に見ると、前回調査に引き続き、「生鮮食品」と「家具・家事用品」のマイナスが大きくなっており、更なる注意が必要である。

【来訪（P. 7）】

- ・2016年11月以降、プラスの状態が続いてきた「延べ宿泊者数」の前年同月比であるが、2017年7月以降は前年割れが続いている。
- ・2017年6月に大幅なマイナスに落ちた「外国人延べ宿泊者数」の前年同月比であるが、少しずつ持ち直し、9月にプラスに転じた。インバウンド需要の今後の動向が注目される。

【生産（P. 8）】

- ・2016年12月以降、前年を下回ってきたきた奈良県の鉱工業生産指数は、2017年10月に前年同月を大きく上回った。今後の変化が注意される。
- ・「電気機械工業」の前年同月比が、前回調査時点と変わらず、大きなマイナス値を示している。今後も注意が必要である。

【民間投資（P. 9）】

- ・前回の調査では小さな浮き沈みを繰り返していた「住宅着工戸数」の前年同月比であるが、2017年7月以降は前年割れが続いている。
- ・2017年7～9月の間の「住宅着工戸数」については、対象を分類別に見ても、殆どどの月で前年同月比がマイナスの状態にある。今後、民間投資の更なる冷え込みが懸念される状態にある。

【公共投資（P. 10）】

- ・2017年8月・9月は、トータル的に見て公共事業が前年割れしている状態であった。
- ・10月は、県・国・市町村とも、公共事業が前年よりも増えている。
- ・2017年8～10月の期間合計で見ると、「県公共事業等事業施行契約済額」「国関連公共工事請負金額」「市町村関連公共工事請負金額」のいずれもが、前年を下回っている。

【雇用（P. 11）】

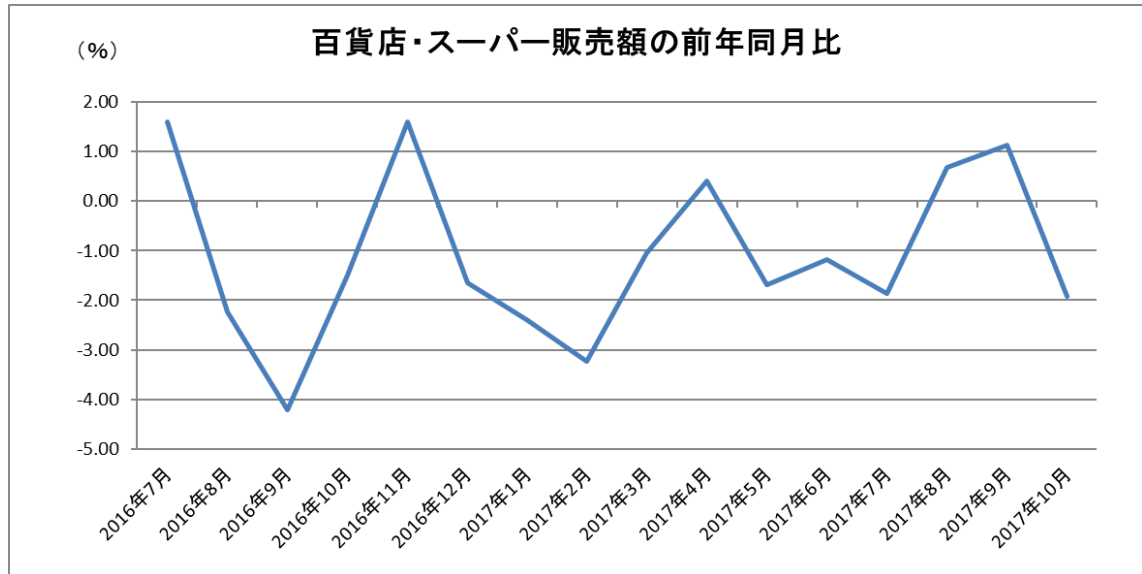
- ・2017年7月に上昇した「新規求人倍率」は、8月・9月も上昇したが、10月に低下した。
- ・7月に上昇に転じた「有効求人倍率」は、8月～10月の間、上昇を続けた。
- ・趨勢として、前回同様に奈良県の雇用情勢は改善が進んでいる。
- ・2017年8～10月の「正社員有効求人倍率」は上昇を継続しており、最新の10月のデータは、前年を0.15ポイント上回っている。正社員の求人数の増加が顕著に現れている。

[2] 具体的な分析内容

1. 消費

(1) 奈良県の百貨店・スーパー販売額

① 前年同月比の推移・全店ベース（2017年10月は速報値）



出典：近畿経済産業局 百貨店・スーパー販売状況

[今回のデータの考察]

- ・奈良県内の百貨店・スーパー販売額の前年同月比は、2017年5月からマイナスが続いていたが、8月・9月はプラスになった。しかし、10月には再びマイナスに転じた。

[前回の考察との比較]

- ・前回・前々回に引き続き、奈良県内の百貨店・スーパー販売額の前年同月比は浮き沈みを繰り返している。
- ・今後の前年同月比がマイナスを続けるか、再びプラスに転じるか、また増減の幅はどのように変化するのか、注目する必要がある。



②直近の状況（2017年10月は速報値）

単位(百万円、%)

対 象	2017年8月		2017年9月		2017年10月・速報値		
	販売額	前年 同月比	販売額	前年 同月比	販売額	前年 同月比	
合 計	18,987	0.7	17,213	1.1	18,092	▲ 1.9	
商	衣料品計	1,897	1.2	1,794	3.6	2,274	▲ 3.7
	紳士服・洋品	405	4.7	364	11.5	518	1.0
	婦人・子供服・洋品	1,238	▲ 0.4	1,201	1.6	1,480	▲ 3.7
	その他の衣料品	254	3.7	229	2.6	276	▲ 11.3
品 別	身の回り品	630	7.3	545	8.7	551	▲ 0.3
	飲食料品	12,851	1.0	11,611	0.4	11,800	▲ 1.6
	家具・家電・家庭用品計	692	▲ 4.1	635	▲ 4.4	668	▲ 8.0
	家具	84	2.5	69	▲ 3.7	93	▲ 9.1
	家庭用電気機械器具	115	▲ 14.7	120	▲ 1.5	128	▲ 0.9
	家庭用品	493	▲ 2.4	446	▲ 5.3	447	▲ 9.6
	その他の商品	2,789	▲ 1.2	2,528	2.8	2,703	▲ 0.6
	食堂・喫茶	127	▲ 3.9	99	5.7	96	4.2

商品名	内 容 例 示
紳士服・洋品	紳士服、下着類、ワイシャツ、ネクタイ、靴下など
婦人・子供服・洋品	婦人服、子供服、下着類、ブラウス、靴下など
その他の衣料品	呉服、反物、寝装具類、和装小物、タオルなど
身の回り品	靴、履物、和・洋傘類、かばん、トランク、ハンドバッグ、裁縫用品、装身具(宝石、貴金属製を除く)など
飲食料品	飲料、和・洋酒、調味料、食肉、鮮魚、乾物、野菜、果実、菓子、パン、乳製品など
家 具	和・洋家具、室内調度品、神仏具、じゅうたん、カーテン、ござなど
家庭用電気機械器具	テレビ、ラジオ、ステレオ、DVD、エアコン、電気洗濯機、電気冷蔵庫、照明器具、電気こたつ、電気ストーブ、パソコン、電話機、携帯電話機など
家庭用品	陶磁器、ガラス器、漆器、金物、荒物、ガス器具、石油ストーブ、水道器具、ミシン、編機など
その他の商品	医薬品、化粧品、洗剤、書籍、文房具、事務用品、貴金属、宝石、美術工芸品、時計、眼鏡、カメラ、ビデオテープ、CDソフト、DVDソフト、スポーツ用品、娯楽用品、がん具、電子応用がん具、ゲームソフト、楽器、園芸用品、大工用品、ペット関連商品、たばこ、喫煙具、燃料、自転車、自動車、トイレットペーパー、ティッシュペーパー、紙おむつなど
食堂・喫茶	食堂、喫茶室、すし屋などその場で顧客に飲食させるもの

出典：近畿経済産業局 百貨店・スーパー販売状況

[今回のデータの考察]

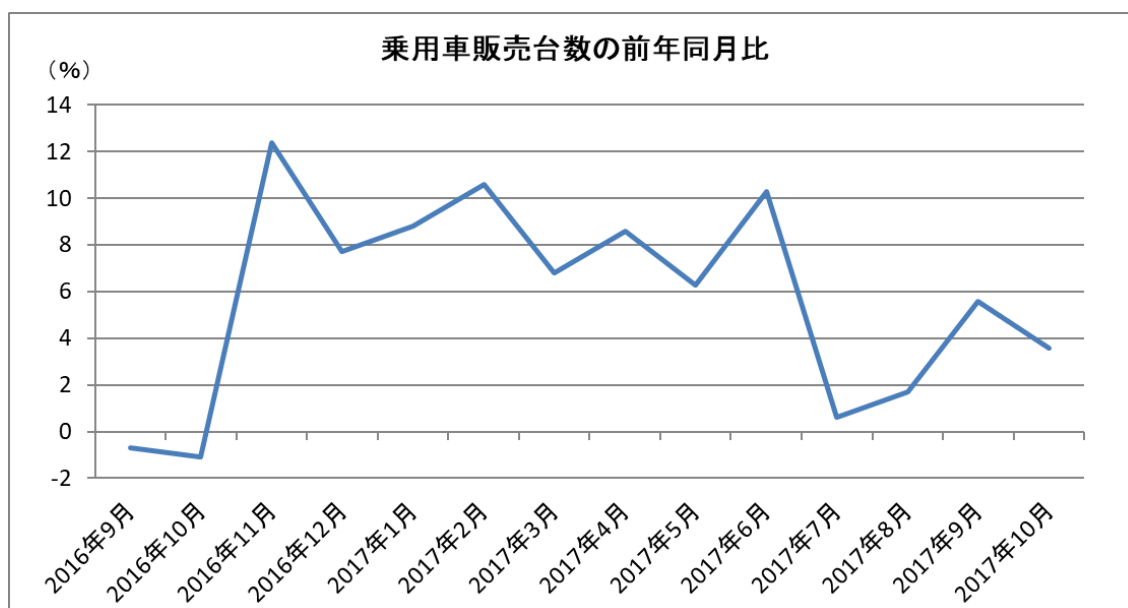
- ・前回の調査では、合計の商品販売額の前年同月比がマイナスに落ちていたが、2017年8月・9月は若干のプラスになり、10月は再びマイナスになった。
- ・商品カテゴリー別に見ると、「衣料品」「身の回り品」「飲食料品」が8月・9月の前年同月比の増加に貢献したが、10月は全ての商品カテゴリーが前年同月を下回った。

[前回の考察との比較]

- ・2017年10月の前年同月比のマイナス値はまだ小さい。今後の動向を、更に注目する必要がある。

(2) 奈良県の乗用車販売台数

① 前年同月比の推移



出典：奈良運輸支局・奈良軽自動車協会

② 直近の状況

単位(台、%)

対 象	2017年8月		2017年9月		2017年10月	
	販売台数	前年同月比	販売台数	前年同月比	販売台数	前年同月比
合 計	2,998	1.7	4,340	5.6	3,405	3.6
普通車・小型車	2,022	7.0	2,750	2.9	2,099	▲ 2.6
軽自動車	976	▲ 7.8	1,590	10.4	1,306	15.5

出典：奈良運輸支局・奈良軽自動車協会

[今回のデータの考察]

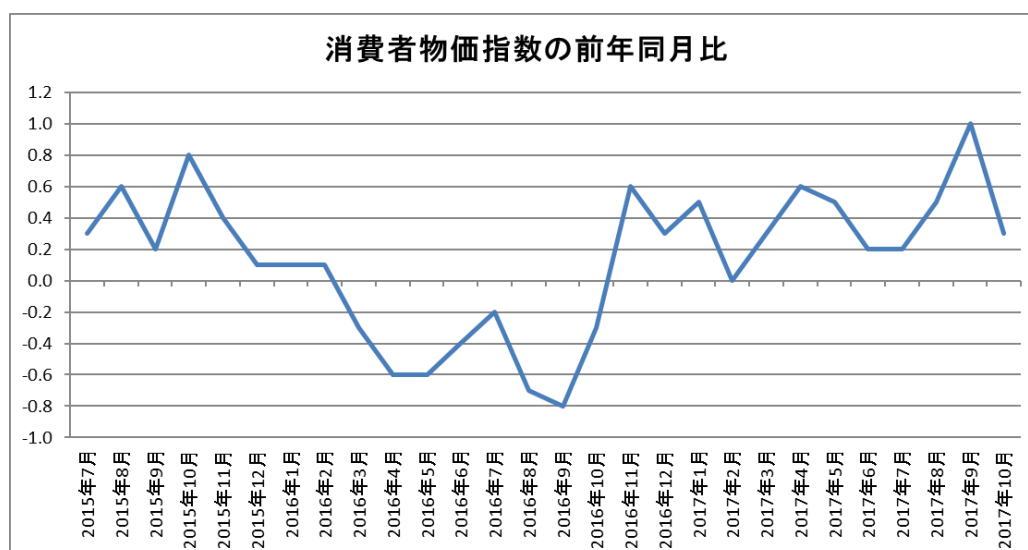
- ・2017年8月～10月の間、「乗用車」の販売台数合計はプラスになった。
- ・特に、9月は「普通車・乗用車」「軽自動車」ともに、販売台数が前年を上回っている。

[前回の考察との比較]

- ・今回の調査においても乗用車販売台数は前年よりも増えているが、伸びは小さくなりつつある。今後の動きに注意が必要である。

(3) 奈良市の消費者物価指数

①前年同月比の推移（総合指標）



出典：奈良県

②直近の状況（総合指標）

単位(2015年=100)

区分	平成28年	平成29年	平成29年	前月比 (%)	寄与度	前年同月比 (%)
	10月	9月	10月			
総合	100.3	100.5	100.6	0.0	0.05	0.3
除く生鮮	99.6	100.1	100.3	0.3	0.25	0.7
除く生鮮・エネルギー	100.4	100.4	100.6	0.2	0.19	0.3
生鮮食品	115.6	111.1	106.0	▲ 4.5	▲ 0.21	▲ 8.3
食料	103.1	103.7	103.1	▲ 0.6	▲ 0.15	▲ 0.1
住居	99.1	99.2	99.2	0.0	0.00	0.2
光熱・水道	92.3	96.5	96.5	0.1	0.00	4.6
家具・家事用品	94.8	91.4	91.7	0.4	0.01	▲ 3.3
被服及び履物	102.5	102.7	103.0	0.3	0.02	0.5
保健医療	101.5	103.5	103.5	0.0	0.00	2.0
交通・通信	98.0	97.9	98.7	0.8	0.12	0.7
教育	102.9	101.7	101.7	0.0	0.00	▲ 1.2
教養娯楽	103.0	102.2	102.6	0.3	0.04	▲ 0.4
諸雑費	100.2	99.8	99.8	0.0	0.00	▲ 0.4

出典：奈良県

[今回のデータの考察]

- ・2017年11月以降プラスの状態を続けてきた「奈良市の消費者物価指数」の前年同月比は、今回の調査においても前年を上回り続けた。

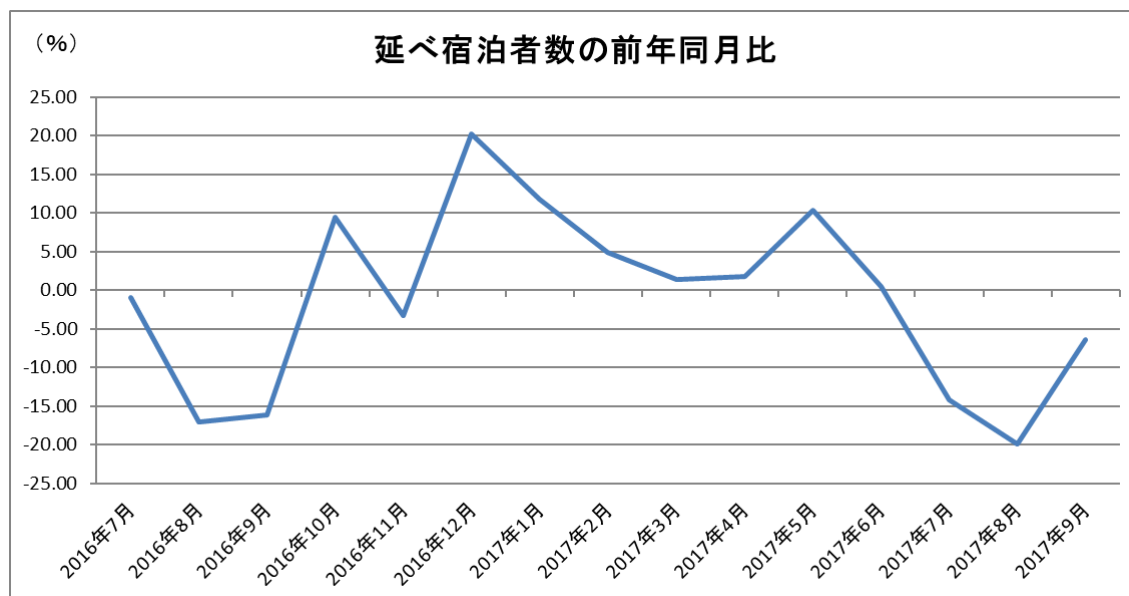
[前回の考察との比較]

- ・商品群別に見ると、前回調査に引き続き、「生鮮食品」と「家具・家事用品」のマイナスが大きくなっており、更なる注意が必要である。

2. 来訪

◆奈良県内の宿泊者数

①延べ宿泊者数の前年同月比の推移

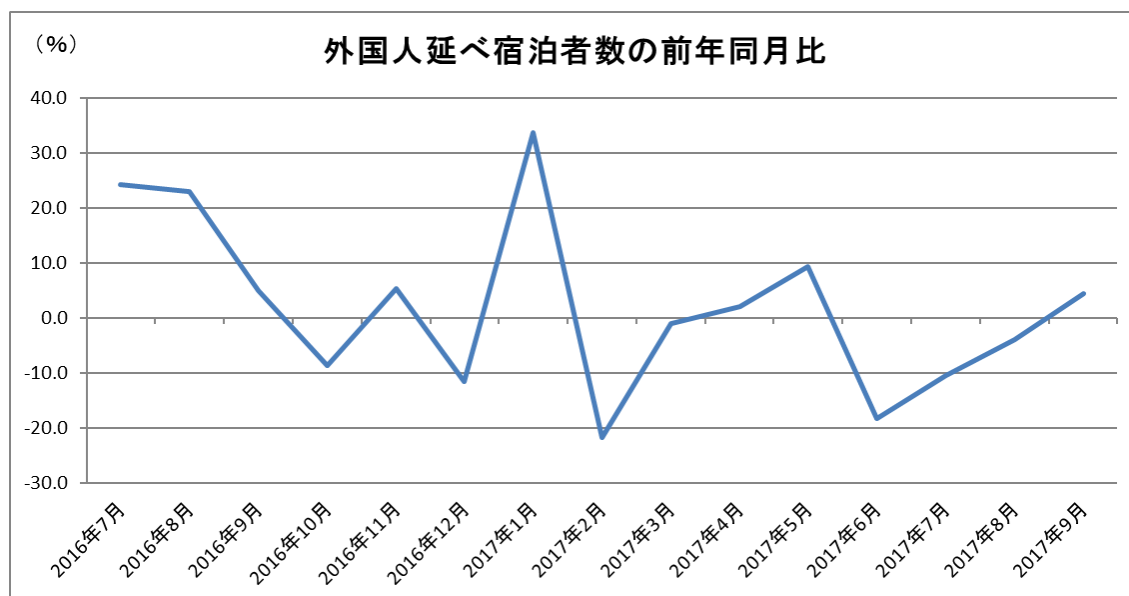


出典: 国土交通省 宿泊旅行統計調査

[今回のデータの考察]

- ・2016年11月以降、プラスの状態が続いてきた「延べ宿泊者数」の前年同月比であるが、2017年7月以降は前年割れが続いている。

②外国人延べ宿泊者数の前年同月比の推移



出典: 国土交通省 宿泊旅行統計調査

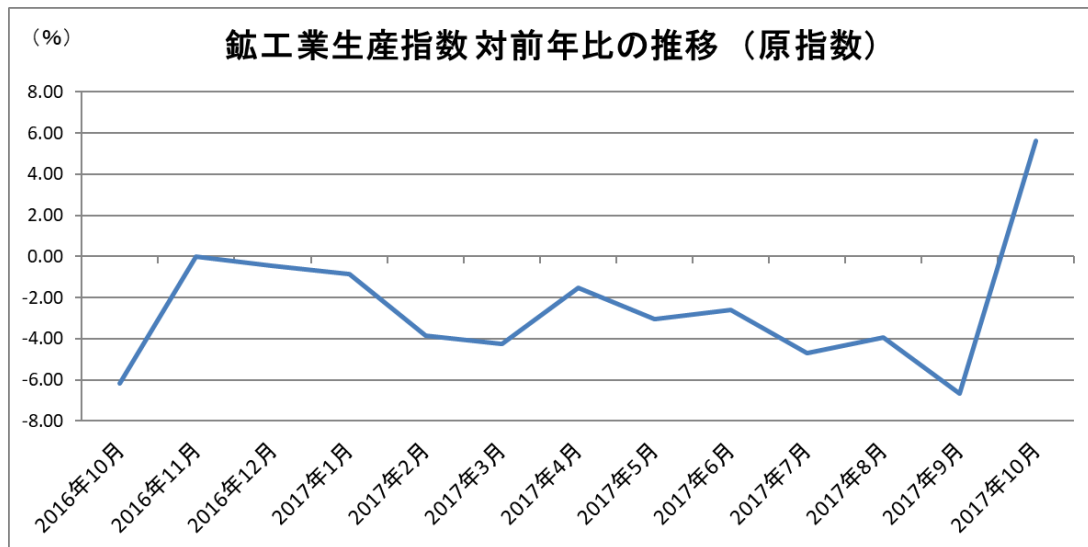
[今回のデータの考察]

- ・2017年6月に大幅なマイナスに落ちた「外国人延べ宿泊者数」の前年同月比であるが、少しずつ持ち直し、9月にプラスに転じた。インバウンド需要の今後の動向が注目される。

3. 生産

◆奈良県の鉱工業生産指数・原指数

①前年同月比の推移



出典：奈良県

[今回のデータの考察]

・2016年12月以降、前年を下回ってきたきた奈良県の鉱工業生産指数は、2017年10月に前年同月を大きく上回った。今後の変化が注意される。

②直近の状況

単位(2010年=100、%)

対象	2017年8月		2017年9月		2017年10月	
	指数	前年同月比	指数	前年同月比	指数	前年同月比
合計	83.3	▲ 3.92	89.4	▲ 6.68	95.9	5.62
鉄鋼業	89.5	4.43	93.8	12.47	98.9	12.90
非鉄金属工業	74.3	▲ 3.26	86.8	6.90	83.8	1.09
金属製品工業	89.2	▲ 1.87	94.3	▲ 9.59	92.7	▲ 1.80
一般機械工業	104.5	4.40	115.2	9.61	134.5	32.64
電気機械工業	4.6	▲ 88.17	4.0	▲ 91.40	5.0	▲ 83.55
輸送機械工業	97.2	5.88	111.7	1.18	114.5	11.27
窯業・土石製品工業	79.6	▲ 17.26	80.8	▲ 29.86	81.5	▲ 35.47
化学工業	112.0	0.90	130.9	8.18	156.3	23.95
プラスチック製品工業	75.4	▲ 3.95	97.0	10.10	96.7	6.97
パルプ・紙・紙加工品工業	117.9	4.34	119.1	▲ 5.25	134.2	0.75
繊維工業	72.4	▲ 8.82	79.3	▲ 4.57	82.2	▲ 2.95
食料品・たばこ工業	94.2	3.86	89.9	▲ 8.17	97.6	10.16
その他工業	107.7	4.06	108.1	▲ 5.75	106.1	▲ 5.18

出典：奈良県

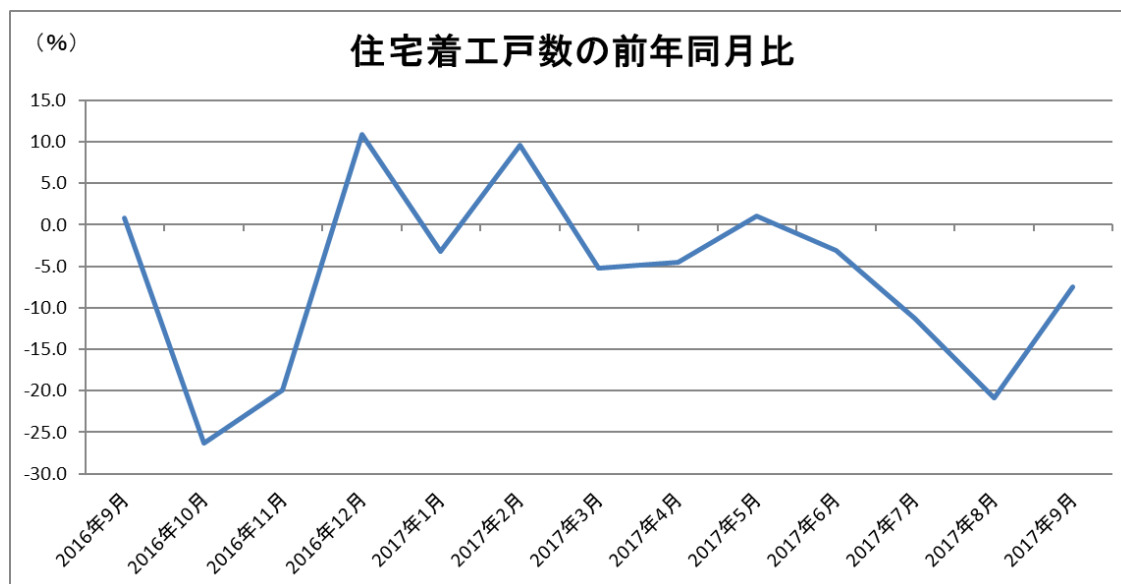
[前回の考察との比較]

・「電気機械工業」の前年同月比が、前回調査時点と変わらず、大きなマイナス値を示している。今後も注意が必要である。

4. 民間投資

◆奈良県の住宅着工戸数

①前年同月比の推移



出典：国土交通省 着工新設住宅戸数

[前回の考察との比較]

- ・前回の調査では小さな浮き沈みを繰り返していた「住宅着工戸数」の前年同月比であるが、2017年7月以降は前年割れが続いている。

②直近の状況

単位(戸、%)

対 象	2017年7月		2017年8月		2017年9月	
	着工戸数	前年同月比	着工戸数	前年同月比	着工戸数	前年同月比
合 計	479	▲ 11.3	439	▲ 20.9	580	▲ 7.5
持ち家	228	▲ 6.6	169	▲ 23.9	216	▲ 18.8
貸 家	135	▲ 16.7	162	▲ 21.7	221	1.8
分 譲	116	▲ 13.4	108	▲ 12.9	143	▲ 0.7

出典：国土交通省 着工新設住宅戸数

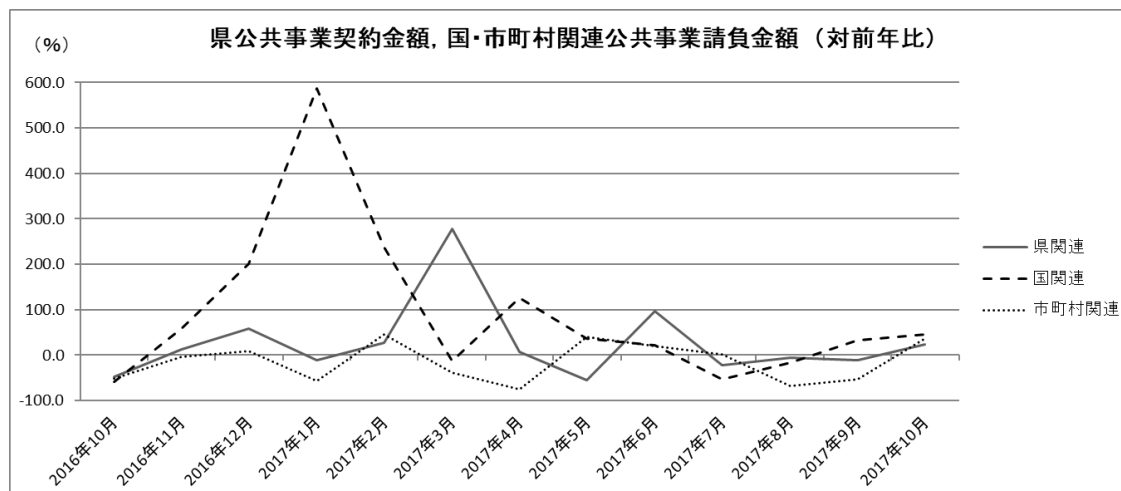
[今回のデータの考察]

- ・2017年7～9月の間の「住宅着工戸数」については、対象を分類別に見ても、殆どどの月で前年同月比がマイナスの状態にある。
- ・今後、民間投資の更なる冷え込みが懸念される状態にある。

5. 公共投資

◆奈良県の公共事業請負金額

①前年同月比の推移



出典:奈良県

②直近の状況

単位(百万円、%)

対 象	2017年8月		2017年9月		2017年10月	
	金額	前年同月比	金額	前年同月比	金額	前年同月比
県公共事業等事業 施行契約済額	2,556	▲ 53.4	6,510	1.8	4,009	24.1
国関連 公共工事請負金額	1,593	▲ 16.2	796	▲ 68.3	1,776	46.3
市町村関連 公共工事請負金額	3,666	32.0	2,511	▲ 52.7	2,876	36.7

出典:奈良県

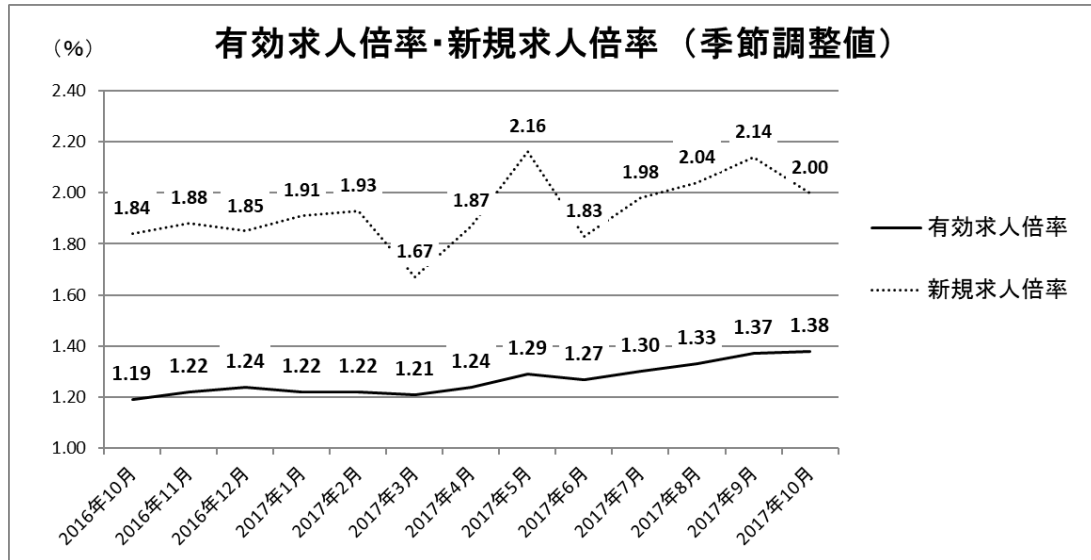
[今回のデータの考察]

- ・2017年8月・9月は、トータル的に見て公共事業が前年割れしている状態であった。
- ・10月は、県・国・市町村とも、公共事業が前年よりも増えている。
- ・2017年8～10月の期間合計で見ると、「県公共事業等事業施行契約済額」「国関連公共工事請負金額」「市町村関連公共工事請負金額」のいずれもが、前年を下回っている。

6. 雇用

◆奈良県の求人倍率

①求人倍率・季節調整値の推移

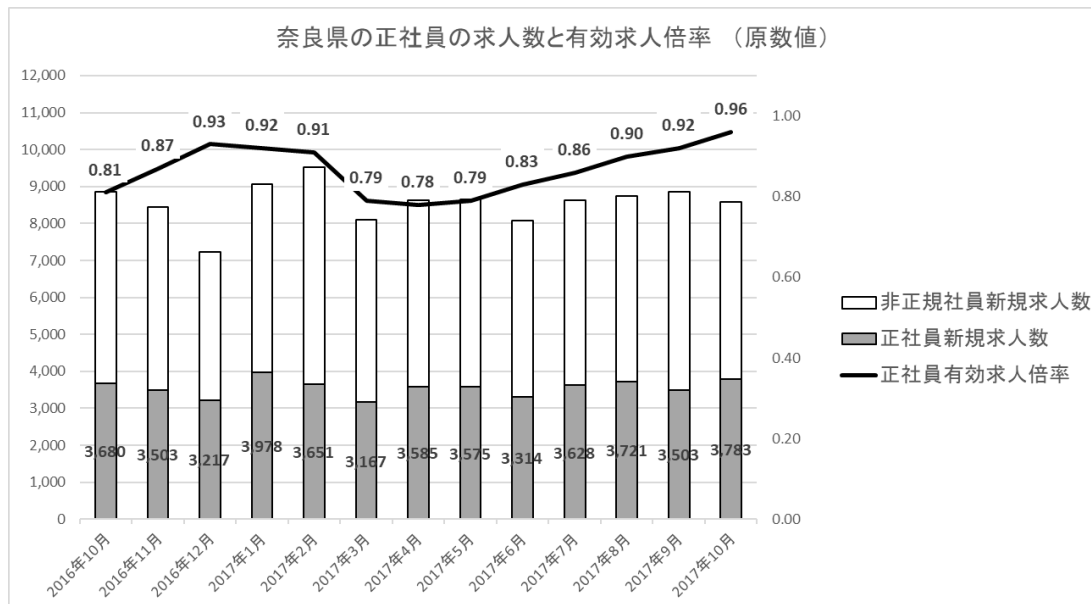


出典：奈良労働局

[今回のデータの考察]

- ・2017年7月に上昇した「新規求人倍率」は、8月・9月も上昇したが、10月に低下した。
- ・7月に上昇に転じた「有効求人倍率」は、8月～10月の間、上昇を続けた。
- ・趨勢として、前回同様に奈良県の雇用情勢は改善が進んでいる。

②正社員の有効求人倍率



出典：奈良労働局

[今回のデータの考察]

- ・2017年8～10月の「正社員有効求人倍率」は上昇を継続しており、最新の10月のデータは、前年を0.15ポイント上回っている。正社員の求人数の増加が顕著に現れている。

以上